

令和元年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



茨城県知事賞

清宮 学江 (セ・シボンかしま) 「鬼退治は年男に任せてくれ!」



茨城県老人福祉施設協議会長賞
藤田 美加 (筑園苑) 「年輪花(なんりんか)」



茨城県介護福祉士会長賞

佐久 和宏 (笠間陽だまり館)

「今の牛乳かんはミカンを入れるんだね」



茨城県介護福祉士会長賞

山縣 路子 (シルトピア) 「落っこどすなや!」



審査委員長賞
森嶋 華菜 (ドルフィン)
「デイサービスの織姫たち☆」



審査委員長賞

根本 陽子 (東野の家) 「笑顔の中で」



情報委員会委員長賞
瓊井田 真紀（ひぬま苑）「嬉しくて、涙が出ちゃう！」



情報委員会委員長賞
橋本 歩（新つくばホーム新館）「長生き万歳！！」

はじめに

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」（十一月十一日）の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、「介護の日」作文コンクールを実施しており、今年度で十一回目となります。今年度は皆様から五百六十六作品もの多くの御応募をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会長賞、茨城県介護福祉士会長賞の各二作品の合計十二作品を選定いたしましたので、ここに受賞作品を御紹介します。

また、第十一回目を迎えました写真コンクールは、特別養護老人ホーム等の介護施設・事業所で働いている介護職員などから、福祉・介護現場の感動、感激、喜びを伝える心温まる作品を募集して、応募された作品百五十一の中から、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会長賞等に選定いたしました受賞作品を掲載しています。

目 次

井坂 仁美 「介護実習体験を通して」……………	1
張能真智子 「私の天職」……………	2
グエン ティ オアン……………	3
「介護について考えたこと」……………	3
瓊井田真紀 「あの日の笑顔」……………	4
石川 佑莉 「僕のひいおばあちゃん」……………	5
益子 慎司 「福祉に関わる栄養士として」……………	6
橋本 春江 「介護と私」……………	7
黒沢 朗 「よりそって、介護」……………	8
阿久津英瑠 「『ありがとう』の一言で」……………	9
田村 茉由 「大切な人からありがとう」……………	10
奥山 愛梨……………	11
「祖父母が最後に教えてくれたこと」……………	11
鳥羽田夏紀 「祖母がくれたもの」……………	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み……………	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み……………	14
茨城県理学療法士会の取り組み……………	15
茨城県介護福祉士会の取り組み……………	16



木村 佳人 (やすらぎの里)
「私のダンナ、私の若い時、いがったナー」



松本 美奈 (ぬくもり荘)
「久しぶり 泡に乾杯 こりゃんめえ」



藤澤 康彦 (ユーアイの家)
「きれいね」



卯都木 奎斗 (トランス田村)
「ベストカップル」



渡辺 邦枝 (成華園 多賀)

「やる気!元氣!茨城!」



茨城県知事賞

介護実習体験を通して

私は福祉実践コースで「介護」を学ぶ高校生です。介護実習に行き、介護の仕事や施設の一日の流れを知る貴重な体験をすることができました。この経験から「介護」について感じたことをお話しします。

介護実習を通して一番感じたことは「介護という仕事の素晴らしさ」です。私は訪問介護の実習に行き、介護職員の方と一緒に利用者の方の自宅を訪問しました。利用者の方はお部屋で横になっていて体調が優れない様子でした。職員さんは利用者さんのお話を聞きながらお掃除をしたり料理をしていました。

職員さんは明るく穏やかに話かけていて、最初元気がなさそうな様子だった利用者の方もだんだんニコニコと話すようになって、ご家族のお話や楽しかったことをたくさん話してくれました。そのとき、介護は相手を笑顔にする仕事なのだと思います。介護のお仕事の大変さや難しさを感じましたが、それ以上に職員さんの利用者の方に寄



水戸女子高等学校 3年生

井坂 いさか
仁美 ひとみ

り添ったケアや、利用者の方のたくさん笑顔を見ることができ、自分もこのような介護ができる人になりたいと思いました。介護福祉士という名前の「介」は助ける、「護」はまもる、「福祉」は幸せ、という意味があり、人の幸せを守る仕事で、介護はヒーローのような仕事だと施設で働いている先生が話していました。人を支えるお仕事は素晴らしいと思いました。

私は介護実習を通して人と関わることの楽しさを知り、介護施設でのボランティアに積極的に参加できるようになりました。利用者の方のお話のためになる貴重なことばかりで勉強になり、たくさん笑顔を見せてもらえると私もとても嬉しくなりました。介護実習では発見や気づきが多く自分自身の視野を広げることができました。これから福祉や介護の勉強に励み、学びを深めていきたいと思いました。



西井上 知子 (成華園)

「手遊び」



茨城県知事賞

私の天職

私が介護の仕事に就くきっかけとなったのは、ヘルパー二級の資格を取る際に、御指導頂いた先生より、現在勤めている施設に面接に行って欲しいというお話を頂いた事から始まりました。当初は子供も小さく、フルタイムで働く事はできなかったのですが、三人の子供を連れて離婚する事になり、親元近くのアパートへ引っ越しして両親に助けてもらいながら、また夏休み等は子供を職場であるデイサービスに、連れて来てても良いと言って下さる環境にも恵まれ、今まで十九年間勤めを続ける事ができました。子供達も利用者様と触れ合う中で、人を思いやる事のできる、優しい心を持った大人へと成長してくれました。

私も離婚から、母の入院中の父の突然死の時には、身近に居る親の変化にも気付いてあげられなかった私が、介護の仕事をしていても良いのだろうかかと真剣に悩み、同僚にも相談しました。そんな時も、利用者様の「ありがとう。」や「あなたが居てくれて良かった。」という言葉に支えて



介護職員

張能
ちようのう

真智子
まちこ

頂きながら、介護士という仕事は何てやりがいのある素晴らしい職業なのだろうと思う事ができました。その後体調を崩し一年間、療養の為に休暇を頂く事になり、途中他の職員が毎日頑張っているのに、休んでいる事が申し訳なく、上司に何度か退職を申し出たのですが「一年間休む事ができるのだから、しっかり治して戻ってきなさい。」という言葉頂き、一年後に部署は変わりましたが、復帰する事ができました。

今はユニットリーダーとして勤めさせて頂いております。心許せる仲間達と、これからも入居者様がご自分でできる事をできるだけ維持し、人間らしく生きる喜びや、心から笑ったり幸せを感じて頂き「明日も生きてみよう。」と思っ頂けるような、より良い支援ができるよう、他の部署とも連携をとり、私がこの介護という現場にいる間は続けていき、退職しても何らかの形で関わっていきたいと思っています。



矢吹 剛 (ハートピア水戸)

「2人合わせて204歳!楽しい人生はこれからよ!」



茨城県議会会議長賞

介護について考えたこと

私はベトナム出身です。日本に来て半年経ちました。日本の専門学校で介護福祉士になるために勉強しています。

まず、介護を勉強しようとしたきっかけは、私の祖父は認知症でした。ですが、私の国は介護の仕事がないです。なので、私は祖父のような認知症の方を助けたいと思い、日本に来て勉強しています。しかし、私の両親は私が介護をすることを反対しています。ベトナムに介護がなく、あまり知られてないし、認知症の祖父を介護している両親は大変さを知っています。私もいざ日本に来て、勉強してみると日本語は難しいしとても大変です。やめようと思ったこともあります。でも、そのような時思い出すのは、反対しながらも私を応援してくれている両親や実習先で出会った利用者さんの顔です。



アール医療福祉専門学校 2年生

グエン ティ
オアン

私はこの前、実習に行きました。実習で担当した利用者さんは職員さんによると、いつも一人でいて、他の利用者さんとは話さないし体操もやらないとのことでした。私はそれを聞いてとても不安になりました。でも、話を聞くと利用者さんは答えてくれました。しかけると利用者さんは答えてくれました。毎日毎日話しかけました。ある日私が体操に誘いました。すると、利用者さんは「いいよ。」と言って体操と一緒にやってくれました。私はとても嬉しくなりました。ただ体操をやってくれただけじゃなくて、笑ってくれました。私はその利用者さんの笑顔を見て、もっと嬉しくなったり、これからもたくさん利用者さんを笑顔にしたいと思いました。



阿部 よし江 (れもん)

ごちそう様。「これ、うまい!」



茨城県議会会議長賞

あの日の笑顔

今から八年前、当時九十六歳の大好きだった祖母が倒れ、在宅での介護を受けるようになった。それまで元気で何でも一人で出来ていた祖母が日に日に認知症が進行して行く姿が今でも忘れられません。認知症や介護の知識など全く無知だった私は、祖母の姿を見てただただ悲しんでいました。訪問介護の方に来て頂いている時に、私は何度か横で排泄介助等を見ていました。

「ありがとうございます。」

と祖母が可愛い笑顔を見せていた。その時の祖母の笑顔を見て私は決意しました。

「私もおばあちゃんのお世話をして、喜ぶ笑顔が見たい。中途半端じゃなく、一から介護を学びたい。」と。

それまで働いていた仕事を辞め、現在の施設に入社が決まりました。

入社して三日目、大好きな祖母は天国に旅立った。

それから暫くの間、涙を堪えながら仕事をして

いました。しかし祖母の介護が出来なかった分、利用者様を祖母と思い、重ね合わせ介護させて頂いているうちに、喜びの方が大きくなって行つた。それは、利用者様の笑顔に励まされていたからです。

「笑顔」とは介護する側される側にとって、これ以上ない薬だと思えます。お互いの気持ちに通じ合っているからこそ、お互いが笑顔になれる。元氣になります。

出逢いがあれば、必ず別れが来ます。ご縁があったからこそ、利用者様と出逢い介護をさせて頂いていると思えます。感謝の気持ちを忘れる事なく、利用者様の大切な人生の最期まで、ずっと笑顔で過ごせますように、これからも介護職を頑張っ行ってきたい。

「お世話されて良かった。」と思つて頂けるように。

あの日の笑顔に、ありがとうございます。



介護職員

に
い
だ
真紀

ま
き



狩野 直子 (日立市はまぎく荘)
夏まつり「狙い撃ちだ！」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

僕のひいおばあちゃん

僕には、認知症のひいおばあちゃんがいます。僕が小さいころは、まだ認知症ではなかったのですが、僕がひいおばあちゃんのところに行くと、「ゆうりくん、いらっしやい。」

と言っ、優しくしてくれました。しかし、時とは経つのが早いもので、いつしか僕も中学生になり、ひいおばあちゃんも歳をとっていききました。そして、僕が中学生になったときには、ひいおばあちゃんは僕のことを覚えていませんでした、その時、僕はとても悲しくなりました。その後ひいおばあちゃんは認知症なんだということを聞かされて、大きなショックを受けました。それから、お正月、お盆などのときにひいおばあちゃんに会いに行くのですが、やはり、僕のことを覚えてませんでした。

そんなときにテレビで、認知症の話をしているのを見ました。その話では、認知症の人のことをしっかりと理解してあげることが大切だと話していました。それを聞いて僕はしっかりと理解し



岩瀬西中学校 3年生

石川 佑莉
いしかわ ゆうり

てあげられたらどうかと、過去の自分を振り返ってみました。たしかに僕はひいおばあちゃんに對して、怒るなどのことはしなかった。でも、僕のことを忘れてしまうということに對して少し悲しくなりました。しかし、テレビでの話を聞いて、「しょうがない」と思うようになりました。それから僕はひいおばあちゃんに對して、その姿を見られるだけで良いと思うようになりました。たしかに、前のように僕の名前を呼んでくれなくても、前のように僕に優しくしてくれなくても、それでもいい、あの頃の思い出があればいいと思います。

これから、まだ、ひいおばあちゃんに会えるときがあると思います。僕は、その時、その時を大切に、忘れてしまっても、何度も何度も、声をかけて、一緒に話してあげたいと思います。今までの思い出を大切にしながら。



松本 選之 (やすらぎの園)
「ミセスりんご娘」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

福祉に関わる栄養士として

私は高齢者施設で管理栄養士をしています。身辺のお手伝いを直接行う機会は多くありません。仕事を始めたばかりの頃は「ここに自分は必要なのか？」と、高齢者介護に携わっている自分について自問自答を繰り返していました。

仕事に対する明確なビジョンも無く、栄養管理をするだけでいい、栄養を計算する事が使命。そんな高慢な自尊心の塊であったため仕事をしていても孤立感を感じ、仕事に対する不満は募るばかりでした。そんな自分を変えてくれたのは、食に関する一つの出来事がきっかけでした。

施設では利用者様に四季を感じてもらうために様々なイベントが催されています。また通常の食事とは少し違う華やかな食事を準備します。フロアに行くと、ある利用者様から「ご馳走さま。本当に美味しかったです。またよろしく。」とおっしゃってくださいました。

翌年、同じ時期にその利用者様はフロアにいませんでした。食事が難しくなりベッドに横になることが多くなっていました。泣きながら細かく刻まれている行事食を召し上がっていました。



介護職員

ましこ
益子
しんじ
慎司

間もなくその方はお亡くなりになられ、後日介護職員から「行事食を食べられない自分に嫌気がさしたようで泣いていた」と聞きました。

食べる事を続けてもらうために何かやれる事があったんじゃないか？自問自答する中で気づくことができました。

「最後の一口まで。」これが、福祉に携わる栄養士の使命なのだ。日常を支えているのは介護職員だけではありませんでした。自分もそれを担っており、ともに支えあう沢山の協力者がいることに気づきました。

食とは日常の一部であり人に幸福感をもたらす特別なものでもあります。しかし、人は老いてくると食を食べることすらままならなくなりやがて食べることを諦めてしまいます。食べる時の利用者様の笑顔のために自分は管理栄養士として職場にいらることを利用者様の涙と命に教えてもらいました。昔の自分に話すことができるなら教えてあげたいです。

「おいしい自分。やらなきゃならないことは山ほどあるぞ！一人で悩むな！介護は最高だぞ！」



重田 律子 (玉樹)

「傍にいたら安心？」



茨城県社会福祉協議会長賞

介護と私

私が介護福祉士の資格を目指すようになったのは、以前の職場での苦い経験があったからです。私はヘルパーとして勤務していましたが他職種のかたと介護していく中で、専門用語や知識不足を痛感し、もっと質の良い介護を提供するために更なる勉強の必要性を感じ、専門学校 の道を選択しました。

介護実習を通して、認知症を患った利用者様に関しては、その方がそれまでに何を大切に生きてたかが症状に色濃く現れるという事を学びました。認知症の利用者様と接する事で、もし自分が自身が認知症を発症したら、何に固執するだろうか等、普段考えないような事を考えるきっかけにもなりました。そして、時には、辛く悲しい別れに立ち会うケースもあります。別れから学べる事こそが自分にとって、かけがえのない財産となり得ると考えられます。この時に得られた想いこそ、その後の人生に大きな影響を与えるような数々のきっかけで満ちています。も



アール医療福祉専門学校 2年生

はしもと
橋本 春江
はるえ

し自分自身が最後を迎える時、同じように強く居ようという気持ちがあったり、他の利用者様や自分自身の両親を大切にしようという気持ちを再認識する機会となるであろう。

このような事を踏まえた上で、介護とは、利用者様と大切な時間を共に過ごし、苦しい事も楽しい事も分かち合い、施設全体がまるで家族のように感じられる協力体制が重要だと学びました。

このような事を感じる事が出来たのは、学校で知識を習得したからです。以前働いていた時と現在では、利用者様に対する支援に変化がみられました。介護には一つ一つに意味があります。根拠を理解することは質の高い支援を提供する事に繋がります。実習を通して介護福祉士の専門性の必要性を感じました。

職業訓練生として専門学校に通いだしてからは勉強と家庭の両立が難しく大変に感じる事が多くありましたが、学校で学んだ事を今後、活かしていきたいです。



和田 貴喜 (いくり苑那珂)

「白黒つけようじゃないか」



茨城県社会福祉協議会長賞

よりそって、介護

それは五年前のこと、妻はおもいもよらぬ転倒事故で病院へ搬送され、結果は大腿骨折であった。それまでの妻は元氣そのもので入院などしたことなかったのに、五十日間も病院で生活することになった。あまりの突然な出来事で、本人はもちろん夫である私までも奈落に突き落とされたような状況になってしまった。妻が七十八歳のときである。

妻はショックで混乱し、記憶も混濁していった。日時の記憶、衣類や食器の場所の記憶、金銭のことなどもあいまいになり私に何度も聞くことになった。過去の嫌な思い出が何度も頭を過るのか、嫌な原因をあげ私に同意を求めて訴える。一方では、読書が好きだったこともあり毎日、新聞や小説などを読み内容を把握する確かさを残していた。

その後、生活していく中で困ることは、手押し車と杖を頼りにしないと動けないこともあったか、もう生きているのが嫌だ、何も食べたくない、

他の人と会いたくないと言い、しばしば気分が不安定になってしまうことである。

このような妻に対して私のできることは、好みにあう食事づくりをすること、近くの入浴施設に行って気分転換をさせること、親戚や友人のところへ連れて行って話し合いの場をつくること、夫婦の会話のために本を読みあうことをしている。それでも息づまることがしばしばである。ある時には、嫌な考えばかり話す場合には「変な考え飛んでけー行けー」と妻の頭に触れたりもする。妻は笑ったり怒ったりしながらも普段の会話に戻る事ができる。体の動きや、会話の内容の良さがみえた時には「以前より回復してきたよ」と言うとおだやかな顔になる。

現在、週三回の訪問リハビリを受けているが、その折、私は療法士や看護師、ケアマネージャーの方々と相談し、助言を参考にしながら、妻の体調の変化を考慮しつつ、介護を続けているところである。



くろさわ
黒沢

あきら
朗



萱橋 美香 (峰林荘)

「再会だワン!!」



茨城県理学療法士会長賞

「ありがとう」の一言で

私のおじいちゃんは今、足を痛めている。足というのは、生活するうえでかかせないものだ。私のおじいちゃんは、足が痛くて歩けないときがあった。

私は、とても心配になった。おじいちゃんが足を痛めて歩けなくなつたという知らせを聞いたのは、塾の帰り道だった。私は、全力で走つた。家に着いたら、おじいちゃんはもう寝ていたが、私はとても心配で眠れなかった。次の日から、おじいちゃんは少し歩けるようになったので、私はとても嬉しかった。

私も以前、このような体験をしたことがある。私がバスケットをしていたとき、一度腰を痛めて歩けなくなつてしまったときがある。その時に仲間にも助けてもらつて、とても嬉しかったことがある。

私は、このような体験をしたことがあるのでおじいちゃんがどれだけつらいか分かつた。

これから、おじいちゃんの足や腰がもっと悪くなると思う。そして、おじいちゃんがもし歩けな



岩瀬西中学校 3年生

阿久津 英瑠

くなつてしまつたら、私が進んでおじいちゃんの介護をしようと思う。

おじいちゃんには、昔からたくさんお世話になつていることがある。おじいちゃんが私にたくさんしてくれたことの恩返しに私が次は、おじいちゃんを助けたいと心の底から思う。

私は一度、おじいちゃんが倒れそうになつたところを助けたことがある。おじいちゃんはこう言つた。

「ありがとう」

その一言だけで、私はなぜかとても嬉しくなつた。人を助けて、お礼を言われるのは嬉しかった。

おじいちゃんだけではなく、私は他にいろんな人を助けたいと思つた。将来、私はお母さんやお父さんの介護をするかもしれない。

これまでお世話になつたありがたみを込めて介護をしていきたい。そして私は、そんな介護をしている人に憧れているのだ。



須藤 奈津子 (愛和苑)

「母ちゃんの匂いだなあ♡」



茨城県理学療法士会長賞

大切な人からありがとう

私は今、特別養護老人ホームで介護福祉士として働いています。私が介護士になろうとしたきっかけは中学生の時ボランティアで施設を訪れたのがきっかけです。入居者さんの笑顔や職員さんの笑顔を見た時に素敵な人になりたいと思いつた。入居者さんになりました。毎日、入居者さんが楽しく、毎日生きがいを見つけ、支えながら支援していききたいと思えます。私は介護士になって目の前で祖父を胸膜中皮腫という病気で亡くしました。祖父は手術をしても「余命半年」と言われていました。祖父は手術をするも半年しか生きられませんでした。私はまた、明日笑顔で会えると思っていました。私はまた、明日笑顔で会えると思っていました。しかし、次会った時には手が冷たく亡くなってしまった状態でした。あの時、傍で寄り添えることができたらと後悔していました。しかし、家に帰ってきて涙を流す祖父を見て感動しました。この時祖父に「ありがとう」を伝えました。私は介護士として傍で寄り添うことも大切にしようと思っていました。傍で寄り添い入居者

さんが安心して思ってもらえるよう努めていきたいです。祖父から言われた言葉があります。「介護士は素敵なお仕事だから頑張れよ」と言われた言葉があります。私はこの時、介護士は素敵なお仕事ってたくさんの人に言われたいと強く思いました。入居者さんに言われる「ありがとう」や「あなたがいて幸せ」はあたたかい言葉です。毎日どのように支援していけばいいか考えながら続けていききたいと思えます。入居者さんにたくさん寄り添い、毎日楽しく、笑顔でこれからも介護士として頑張っていきたいと思えます。介護士はもちろん大変なお仕事です。入居者さんから教わって学ぶこともたくさんあります。困っている人がいたら助け合いして、これからも入居者さんと一緒に成長し寄り添い、介護士は素敵なお仕事と言われるようこれからも頑張っていきたいと思えます。



介護職員

田村

菜由



本橋 美由紀（ケアステーション藤が原）

「楽しい習い事」



茨城県介護福祉士会長賞

祖父母が最後に

教えてくれたこと

私の祖父は、事故にあい右麻痺になった。手足が自由に動かせない祖父は、毎日祖母を怒鳴りつけていた。その時の私は、麻痺があることの大変さが分からず、手伝いをすることも出来なかった。二〇一四年、祖父が亡くなり、翌年祖母も亡くなった。祖父は亡くなる前、病院にお見舞いに行くたびに少しずつ色々なことを忘れ、亡くなる数カ月前に私のことも分からなくなっていた。祖母の状態も、酸素ボンベを使用しなければ、日常生活を送ることができなくなっていた。祖母と共に、辛そうにしている顔は、今でも目に焼き付いている。私は、祖母にしてあげられなかったことをしたいと思う、福祉科のある高校に入学し三年生になった。福祉施設に実習に行くと、麻痺がある方、認知症の方、酸素療法をしている方など、祖父母と同じ疾患を持つ方がたくさん入所していた。初めは、同じ状態の方とコミュニケーションをとることが、辛そうな祖父母の顔を思い出してしまいそうではできなかった。実習三日目になり、ベッド



古河第二高等学校 3年生

奥山 愛梨
おくやま あいり

メイキングを頼まれた居室の中に、酸素療法をしている方の居室番号があった。居室に行き挨拶すると、「やっと話せたわね、声かけようか迷ったの」と言われなぜか涙がでてしまい利用者の方に分からないように必死にベッドメイキングを行った。それから、普通にコミュニケーションもとれるようになり、幸せな時間はどんな時という話になり、「人と会話している時」と教えていた。だき私は、祖父母に手伝いをしてあげることができないなら、会話をしてあげればよかったんだと祖父母を亡くしてから、三年後に気づいた。それから私は実習に行くに必ず、全ての人となるべくコミュニケーションを取っている。コミュニケーションを取ることで祖父母と同じ状態の方の笑顔を何度も見ることができた。祖父母は最後に私に、いくつもの大切なことを教えてくれたんだと気づくことができた。



峯村 美江 (博慈園)

「美味しい、魔法をかけましょう☆☆」



茨城県介護福祉士会会長賞

祖母がくれたもの

高校卒業後、今の職場である特別養護老人ホームに入社し十三年目を迎えました。祖母が亡くなったのは私が小学校六年生の時。糖尿病で入院して退院して、また入院するという感じだったのでずっとまた退院して家に帰ってきてくれるだろうと思っていました。何度もお見舞に行く度に活気が無くなっていき、細い腕や指、足が浮腫みでパンパンになっていく姿を見るとき子供だった私は「おばあちゃん、またね。」と帰り際に握手することしかできませんでした。病院の先生にあと数日だろうと言われ、病室で涙を流す父の姿をはっきりと覚えています。人が亡くなるという経験が初めてで子供だった私には衝撃的でした。小さい時からかわいがってくれた祖母に何もしてあげられなくてごめんねと何度も心の中から伝え、見送りました。

数年後、進路を考えた時に人のためにできることをしたいと思った私は祖母のように病氣やお年寄りの為にできることを考えました。

まず介護という言葉しか知らなかった私は職場体験という機会に特別養護老人ホームを見学させていただき、介護士さんや入所者様の笑顔を見て迷わず介護福祉士になるというのが私の夢になりました。祖母との別れが私の夢を見つめるきっかけになったことを感謝しています。あの時何もできなかった事を後悔していますが、祖母のおかげで介護という仕事が大好きです。人の最後を見守る仕事でもあり寂しい気持ちになることもありますが、一度でも多く入所者様が笑顔になっていただけると自分にできることを精一杯やっています。

直接、祖母に伝える事はできないけれど届いていると信じてずっと思っていること。夢を見つけてくれて、介護福祉士にさせてくれたおばあちゃん。ありがとう。



介護職員

とりはた
鳥羽田

なつき
夏紀

令和元年 11月10日 (SUN)

私の想い、あなたの想い、
みんなの想いがつながり、
大きな力になる。

入場
無料

いばらき 介護フェス 2019

IBARAKI KAIGO FESTIVAL



「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」という
キャッチコピーのもと、平成20年より「11月11日」は「介護の日」となりました。
今年は、前日の11月10日に開催します!!

時間 9:00~13:00

会場 ユナイテッド・シネマ水戸

〒310-0015 茨城県水戸市宮町1-7-44 COMBOX310内
駐車場: COMBOX310駐車場 **3時間駐車無料(当該駐車場のみ)**

※満車の場合は別の駐車場をご利用下さい。 ※混雑緩和の為、できるだけ公共交通機関でお越し下さい。

EVENTS INFORMATION

[イベントスケジュール]

- 9:00~ 受付
- 9:30~ 開会式
- 9:50~11:30 映画上映「ピア~まちをつなぐもの~」
- 11:35~12:15 「ピア」監督 綾部氏と
脚本家 藤村氏によるトークショー
- 12:25~13:00 茨城県「介護の日」作文コンクール
老施協介護の日写真コンクール 表彰式

トークショー開催 TALK & TALK



後援 茨城県 / 茨城県社会福祉協議会 / 茨城県理学療法士会 / 茨城県介護福祉士会 / 水戸ヤクルト販売株式会社

主催 茨城県老人福祉施設協議会 いばらき介護フェス2019実行委員会
◎お問い合わせ先 tel.029-241-8529
http://www.jsibaraki.jp/

茨城県老施協
マスコットキャラクター
ローシー



茨城県老人福祉施設協議会

一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会 (令和元年10月現在 会員事業所 1,125 事業所)

〒310-0851 水戸市千波町1918 県総合福祉会館 3階

TEL 029 (241) 8529 FAX 029 (241) 4456 http://www.jsibaraki.jp

茨城県社会福祉協議会(茨城県福祉人材センター)の取り組み

あなたにぴったりの仕事さがし!

茨城県福祉人材センターは、厚生労働省から認可を受け、茨城県内における福祉分野全般の無料職業紹介を実施しています。

参加しよう!



ふくし職働(しょくどう)のご案内

福祉の職場に就職を希望する方や従事している方に、求職者支援強化事業「ふくし職働」～ふれあって 暮らしをささえる しあわせな職業どう?～として、福祉の仕事に生かせる実践的な講座を開催しています。

興味のある講座に参加して、福祉職場への就職に生かしてみませんか。

■就職支援講座

県内5地区で、体験型の就職支援講座を実施します。詳しくは、ホームページでご確認ください。

【講座の一例】・認知症VR体験
・介護入門講座 など



■夕暮れしゃべり場(毎月第3水曜日午後6時～8時)

福祉の仕事に従事している方、また就職を希望する方等、誰でも自由に語り合えるサロンです。

■仕事とこころの相談(夕暮れしゃべり場と同日開催)

就職や仕事に関する不安なこころのケアを、専門家が対応します。

相談時間は、原則1人40分程度で、来所、若しくは電話でのご相談となります。予約優先です。事前予約TEL:029-244-4544

※詳細については、お問い合わせください。

体験しよう!



職場体験事業

中学生以上の方を対象に、福祉の仕事「職場体験事業」を行っています。実際の福祉の職場を体験したいという方は、お気軽にご相談ください。

体験先 (高齢者分野)	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービスセンター、グループホームほか
体験内容 (例)	各施設・事業所が用意する体験プログラム 利用者の介護・介助、作業補助、利用者との交流など

働こう!



福祉人材無料職業紹介事業

福祉人材センターに求職登録された方には、県内の福祉事業所などへの職業紹介・あっせんを行います。相談・登録・紹介など無料です。

福祉の仕事に興味や関心のある方はご相談ください。

■無料職業紹介
■福祉の就職総合フェア・就職相談会
■福祉の職場説明会(就職ガイダンス) など



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館2F

TEL029-241-1133(代表)、029-244-4544(福祉人材・研修部) FAX029-244-4543

URL:<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/> E-mail:ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

★北茨城地域自立支援センター

- 保健・医療・介護・福祉・教育・就労の連携推進をお手伝い
- 理学療法士が在宅生活の構築に関する相談を受け付け
- 北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

【相談事例】

- 退院・退所後に自宅での自立した生活がしたい
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- 職業性腰痛、介護方法等に関する勉強会の講師を頼みたい
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい

〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
 北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
 TEL：0293-44-3616



★筑西地域自立支援センター

〒308-0816
 筑西市徳持 433-3 (ヒロサワ・シティ内)
 TEL：0296-25-1135

- 相談支援事業所「ひなた」
(事業実施委託先：茨城県リハビリテーション専門職協会)
- 無料職業紹介事業

★介護予防キャラバン

体力測定に基づく助言や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

【今年度実施・予定】

- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 日立市・ひたちなか市・城里町・銚田市・石岡市・常総市・取手市・筑西市・境町
「日本理学療法士協会全国一斉介護予防・健康増進キャンペーン シルバーリハビリ体操フェスティバル事業」
- 古河市「古河ふれあい広場2019」
- 水戸市「健康づくりキャンペーン」（茨城県）
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」

★シルバーリハビリ体操の普及推進

茨城県では、茨城県立健康プラザや市町村の主催する講習会を修了した「シルバーリハビリ体操指導士」による住民主体の介護予防事業が広く行われています。日本理学療法士協会ならび茨城県理学療法士会では、誰もが気軽に取り組むことができ、介護予防と健康増進に高い効果が認められる「シルバーリハビリ体操指導士養成事業」の普及ならびに「シルバーリハビリ体操指導士」の皆様の活動を応援しています。



県内44市町村と協働して上記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会
 〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35 (茨城県保健衛生会館内)
 TEL：029-353-8474 (直通) FAX：029-353-8475
 ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

homepage



Facebook



Twitter



介護福祉士会 が 変わりました!



一般社団法人 茨城県介護福祉士会

事務局 / 〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地 (茨城県総合福祉会館5階)

TEL: 029-353-7244 (月・木曜日のみ) FAX: 029-353-7246 mail:ibaraki080ccw@topaz.ocn.ne.jp





茨城県

茨城県保健福祉部長寿福祉推進課

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3334



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529